

平成19年度 佐賀県立佐賀商業高等学校 学校評価表

| |
|--|
| 1 学校教育目標 (長期教育目標) |
| 経済社会の各分野で活躍できるように、学校生活のあらゆる機会を通じて商業人として必要な知識や技術を習得させ、生徒の心身を鍛練する。 |

| |
|---|
| 2 学校経営ビジョン (中・短期教育目標) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「授業と部活動を真剣に」をモットーに文武両道の教育を推進する。 ・基本的な生活習慣を身に付けさせ、心身ともに健全な生徒を育成する。 ・キャリア教育(生徒一人ひとりの勤労観や職業観を育てる)を推進し、地域社会や日本経済の発展に寄与しうる商業人を育成する。 |

| | |
|---|--|
| 3 本年度の重点目標 | 4 前年度の成果と課題 |
| <p>「あたりまえのこと(基礎・基本)をあたりまえに！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明るい挨拶、気持ちの良い挨拶をする ・ 朝の10分間読書の推進 ・ 授業と部活動を真剣に ・ 高校生らしい身だしなみ ・ 身の回りの整理整頓 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事の在り方を検討し、授業時間を確保する。 ・ 進路保障の充実を図る。特に進学体制の確立を目指し指導の強化を図っていく。 ・ 生徒指導において学年主任・教育相談係・保健係との連携をさらに密にする。 |

A : 十分達成している
 B : おおむね達成できている
 C : やや不十分である
 D : 不十分である

| 5 総括表 | | | | | | |
|------------------------------|----------|---------------------|--|--|----|---|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的な評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
| 学 校 運 営 | 学校経営方針 | ・ 本年度重点目標の周知 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員、生徒、保護者に周知する。 ・ 周知度を85%以上に上げる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議や全校集会等で説明する。 ・ 学校便り、後援会総会、学級懇談会等の折りに周知し、具体的取組を説明する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校便り、後援会総会、ホームページ等で紹介し、概ね周知できた。 |
| | 教職員の資質向上 | ・ 授業研究の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師一人当たり、年1回以上研究授業を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導方法の工夫・改善のために、各教科での研修や研究の充実を図る。 ・ 何時でも公開授業ができる体制づくり | B | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒・教師共に授業に取り組む姿勢が前年よりも向上した。 ・ 生徒の要望も考慮して、教材の精選を図る。 ・ 知的財産権に関する授業を公開し校内研修会の実施した。(商業) ・ パソコンを用いた授業の回数をさらに増やしていくことが課題である。 |

| | | | | | |
|-----------|--|--|---|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の変化に対応した教育の実践 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 年に1回は研修を受講する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 県教育委員会主催の研修や教育センター研修等を活用し、教育環境の変化に的確に対応できる教員の育成を図る。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修については、5・10年経験者、研修、人権・同和関係、生徒指導関係、各教科部会関係の研修については参加した。ただ授業確保の関係等で自らの研修希望が少なかった。 |
| 開かれた学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1日体験入学の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生の参加者を、昨年並みを目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 19 総体実施であるので、内容を変更して体験入学を実施する。 ・ 中学校における学校説明会の充実 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの生徒が参加し、所期の目的は達成したが、受入数は飽和状態であり、体験形態について検討が必要である。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭や地域への情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 周知度を85%以上にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校のホームページや「鯨の門だより」を通じて、学校の情報を公表し、月に1回は内容を更新する。 ・ 確認証を（受取証）の発行・受取 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・ 後援会総会や地区保護者会等で周知を図ったが、HPや「学校便り」では、まだまだ周知（確認方法等）を図る必要がある。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設や教育資源の地域への開放 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度の開放に向けて条件整備を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設を各種試験会場や地域行事等に解放する。 ・ 地域行事に積極的に協力・参加する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民や地域団体への利用に貢献した。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評議員制度等を活用した学校運営の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評議員会を学期に1回実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評議員会を学期に1回実施し、各委員から出された意見を吟味し、学校運営に反映する。 ・ 学校評議員に授業を参観していただき、意見を聴取し、授業や行事の改善を図る。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学期に1回開催し、今年度は創立100周年式典や体育祭・文化祭にも参加していただき感動の言葉をいただいた。今後は、各委員からの意見を学校運営にさらに生かせるように、校内連携の充実を図る。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や地域の人を対象に、3回以上、公開授業を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 後援会総会時に公開授業を実施する。 ・ 学校開放週間に全ての授業・部活動等を公開する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校開放週間を設け、授業・部活動を公開した。しかし、日程等のあり方も、今後意見を聞きながら、調整していくことが必要である。 |

| | | | | | |
|----------------------------|-------------|--|---|--|--|
| <p>教 育 活 動</p> | <p>学力向上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・指導方法の改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・各教科で分野ごとの到達度を設定し、年度末での到達度テストで、70%以上の通過となるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・進度計画や到達度について各教科間で再点検を行い、教材の作成を行う。また、到達度テストの検討を行う。 | <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技を伴う面では到達は目標値は達成できている。 ・教科・科目ごとに進度係を決め、進捗状況を確認しながら、年間計画や到達度について連絡を取り合い調整を図り、極力平均70%以上になるように取り組んでいく。 ・各種検定についても、合格率のアップが今後の課題である。(英語) ・到達度の低いクラスの目標値に近づけるための、指導方法お工夫も必要である。 ・パソコン・DVDを使った授業に生徒の意欲は向上したと思われる。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得 | <ul style="list-style-type: none"> ・卒業までに全員に1種目以上1級の資格を取得させる。 ・卒業までに3種目1級以上の取得者数を45人以上にする。 ・卒業までに情報処理科の生徒全員に情報処理1級の資格を取得させる。 ・国際経済科の3年次までに、全員に実用英語検定2級を取得させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムを見直す。 ・単元毎の確認小テストを実施し、到達していない生徒には、補講を実施する。 ・高度な資格を取得させる事で、進学を容易にする。 | <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3種目以上1級の資格取得者は、 <ul style="list-style-type: none"> ①3種目41人、 ②4種目26人、 ③5種目16人、 ④6種目10人 計93人の生徒が資格を取得した。(大幅増) ・情報処理科(全体)については、 <ul style="list-style-type: none"> ①ビジネス情報1級 63人 ②プログラミング1級 27人 ③ソフトウェア 2人 ④基本情報 11人 ⑤初級SAD 4人 ・国際経済科(全体)実用英語検定2級に10人、準2級77人が資格を取得した。 |

| | | | | | | |
|------|------|---|---|--|---|---|
| 教育活動 | 進路指導 | <ul style="list-style-type: none"> 進路希望の達成 | <ul style="list-style-type: none"> 就職内定率 100% 進学決定率 100% を目指す。 国公立大学合格者数 2 桁を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> 過去の就職先を訪問するなど企業開拓に力を入れ、今年度の採用の状況を把握する。 進学希望者には 1 年次より進学補講を実施する。 1 年次に進路啓発事業の一環として大学、専門学校、企業等の見学を実施し、早い時期から動機付けを行う。 公務員希望者へも補講を実施する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 企業開拓も数多く実施し、求人状況良好なため、就職内定率 100% 達成。 国公立 13 人合格、目標を達成できた。 国立大学への志願者は多くの国公立大学への合格を目指し、ど希望生徒について、どこまで個別指導を充実させるかが課題である。 補講体制の更なる充実を図る。 |
| | 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 | <ul style="list-style-type: none"> 皆勤の生徒を 5% 増やす。 | <ul style="list-style-type: none"> 「明るい挨拶、気持ちの良い挨拶」運動を推進する。 正しい礼儀作法と服装の端正 個別面談の折りに、生活指導も行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 挨拶運動も一応定着している。しかし、一部の生徒に礼儀、マナーが出来ていない生徒が見られるので、更に全校集会等での徹底を図る。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導方針の確認と指導体制の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 周知度を 80% 以上にする。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導方針を年度当初に職員、生徒や保護者に明確に示し、定期的にその達成度を確認する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導方針については、後援会総会、学年会等で説明する機会があったが、今後さらに周知度をあげる必要がある。 教職員の共通理解をさらに深める必要がある。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 事後指導より事前指導の徹底を図る | <ul style="list-style-type: none"> 事件や事故の発生率を昨年より 10% 下げる。 | <ul style="list-style-type: none"> 事件や事故が起こってから指導するのではなく、事件や事故が起こらないように事前指導を徹底する。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 昨年度に比べ指導件数は減少してきた。(特に 2 年生) |
| | 図書 | <ul style="list-style-type: none"> 図書館の利用促進 | <ul style="list-style-type: none"> 貸出冊数 10% アップを目指す。(一人当たり 3.2 冊 → 3.3 冊) | <ul style="list-style-type: none"> 新刊案内・お薦めの本など広報活動を充実させる。 生徒の学習に必要な書籍を充実させる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 19 総体年度でもあり目標値には達しなかった。(実質 2.9 冊) 各種感想文コンクールの入賞率が高いが、活字離れが進んでいるので、読書習慣を持つ生徒層を拡げる指導・広報を進める必要がある。 |

| | | | | | |
|-------------|---|---|--|----------|--|
| <p>特活指導</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の振興 | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動入部率 90%を目指す。 ・高校総体で昨年同様の優勝旗を獲得する。 ・部活動時のケガを 10%減らす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動紹介において映像や実演を交えて、興味を引くようにする。 ・体験入部期間を設定する。 ・部活動編成に未入部者に対して追指導を行う。 ・部員・指導者研修会を実施する。 ・特色（中学校時代等実績）ある部員確保に努める。 | <p>B</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動については、概ね達成できた。更なる向上を目指す。 ・部活動を辞めた生徒の今後のケアと入部への働きかけの充実。 |
| <p>保健</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の事後指導の徹底 | <ul style="list-style-type: none"> ・う歯・歯周病疾患保有者へ指導を行い未処置者数を 10%減らす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・う歯や歯周病疾患の予防法を周知させ、早期治療に対する意識の向上を図る。 ・検診後及び夏期休業前に治療勧告を実施し、定期的にその達成度を調査する。 | <p>C</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な歯磨き習慣の徹底を図る ・検査終了後の治療率が悪い(特に1年生)ので、来年度は生徒への徹底を図っていく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの減量化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの量を昨年度より 10%減少する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・強調週間を設けて各クラスから出されるゴミの量を定期的に調査し、実態の把握と改善に努める。 | <p>B</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・休業中のゴミの減量化は上手くいくが、平常時がまだ不十分である。部活動の顧問の指導も必要である。 ・ゴミの持ち帰りは徐々にできている。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒等への支援体制を確立する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健室、学年会との連絡会を通じて連絡を密にし、関係職員が共通認識を持って対処できる体制を構築する。 | <p>B</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の連絡会を開き気になる生徒の情報交換をおこなった。 ・教育相談係との連携強化を図る。 ・教職員のカウンセリングマインドの向上を図る。 |
| <p>総務</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・後援会総会への参加率を 75%以上にする。 ・地区別保護者会への参加率を 50%以上にする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育講演会を実施したり、早めの連絡を徹底する。 | <p>C</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・後援会総会への参加率約 70%であり目標を下回った。 ・地区保護者会の実施は 19 総体で実施出来なかった。来年度以降に向けて地区保護者会のあり方について、時期等も含め検討課題としたい |

| | | | | | | |
|--------------------------------------|------|---|--|---|---|--|
| | その他 | <ul style="list-style-type: none"> 進路希望の達成 | <ul style="list-style-type: none"> 職業意識・進路（就職・進学希望）に対する考えを100%明確にするこにより、早くからの学習計画や進路希望達成のための手立てを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ホームルーム等を利用し、職業観や仕事に対する責任を社会の仕組み等を通じて理解させる。（ビデオ利用） 進路発行の就職がイブンスを利用する 人間関係の必要性や社会に適應できるための人間とは、どのような人物かをテーマを設けて理解させる。（学年集会・LHR利用） | B | <ul style="list-style-type: none"> 進路に関するLHRや学年集会の実施が予定通りいかず、明確な進路意識や進路に対する早期意を十分行なうことができなかった。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化 | <ul style="list-style-type: none"> 90%以上の部活動加入率を目指す（文武両道の実現をめざしながら） | <ul style="list-style-type: none"> 部活動は教育の一環であるということ意識させ、競技者・選手であることを、根底に学校でリーダーシップを発揮できる部員・生徒を育てていく。（学年集会等を通しながら） | B | <ul style="list-style-type: none"> 各機会あるごとに入部率のアップを担任を中心として図ってきたが、中途退部が出て最終的に90%を割ってしまった。 |
| 2 学 年 の 教 育 活 動 | 学習関係 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字テスト・英単語テストの不合格者を学年の2%以内にとどめる。 | <ul style="list-style-type: none"> 実施計画に基づき、事前指導、事後指導を徹底する。 | C | <ul style="list-style-type: none"> 漢字テストについては、平均して3%程度の不合格者で、問題が難しくなるにつれて微増した。 英単語テストは、30%程度の生徒が不合格で、事前指導のあり方を再検討する必要がある。 |
| | 生活関係 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 | <ul style="list-style-type: none"> 高校生らしい身だしなみ・言動をとらせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 日常的に服装・頭髪に関して指導する。 挨拶を励行させる 5分前行動を徹底させる。 集会時等の静粛さ徹底 提出物の期限を明確にし、守らせる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部での注意件数はあったが、服装検査の指導数は、全クラス微々たるもので意識の高さが伺えてた。 挨拶、提出物も概ね良好である。 各課と担任との連携の充実を図る必要。 |
| | その他 | <ul style="list-style-type: none"> 進路希望の達成 | <ul style="list-style-type: none"> 進路への意識を明確化させ、進学補講・公務員補講への参加者を学年全体の50%以上にする。 19総体の成功 インターシップを成功させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 補講の内容を精選する。 模擬試験に積極的に挑戦させる。 国公立大学への進学希望者が増え意識付けを折に触れ行う。 選手、補助員とも協力体制で臨む・インターンシップに向けて、企業や職種研究を行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 県模試には多くの生徒が受験してきた。 受験希望者への計画的受験指導法の確立や部活動との連携や調整が今後の課題である。 インターシップはどの生徒も意欲的に取り組 |

| | | | | | | |
|--------------------------------------|--------------|--|--|---|---|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化 生徒会活動に積極的に参加する。 | <ul style="list-style-type: none"> 部活動の入部率を95%以上にする。 各クラス2名以上、生徒会役員として活動させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 顧問との連絡・連携をとり、部員調査を行う。 各クラス2名以上、生徒会役員として活動させる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> み、成果が上がった。 途中退部の生徒もいて、最終的には90%の入部率にあるので、今後も入部を勧めて生きたい。 生徒会役員と部活動との両立が難しく、クラスによっては、1名の役員にとどまった。 |
| 3 学 年 の 教 育 活 動 | 学習関係 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒全員が満足いく進路決定となるように努力する。 | <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが希望する進学先・就職先を早く決定させ、それぞれ100%実現を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> 担任・生徒との面談を頻繁に実施する。 高度資格をできるだけ多く取得させ、国公立大学への合格者数2桁を目指す。 | C | <ul style="list-style-type: none"> 面談は良く行い進路100%決定。国公立大学合格者数2桁に達成できた。 資格取得に向けた計画的に打ち出すことも必要。 |
| | 生活関係 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活態度・マナーの向上 | <ul style="list-style-type: none"> 挨拶、言葉遣い、時間厳守を徹底する。 | <ul style="list-style-type: none"> HR担任がクラスの生徒を十分観察し、的確な指導を心がけ、校則違反やマナーの悪い生徒をなくす。 | C | <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導課との連携が個人レベルでなく組織的体制がもっと必要である。 学年間の連携が必要。 |
| | その他 | <ul style="list-style-type: none"> 部活動の最後の仕上げを実りあるものにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 高校総体で自己ベストを出す。 | <ul style="list-style-type: none"> 担任と顧問の連携で、生徒の状態把握に努める。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 高校総体では中心となって盛り上げることが出来た。 ある程度の成果は収めることが出来た。 各部、各学年団の意識高揚も課題。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 学年独自でのボランティア活動を考える。 校内での企画に加えて校外の機関と協力してボランティア活動の幅を拡げる。 | <ul style="list-style-type: none"> 定期的にクラス独自の活動を展開する。 校外ボランティア団体の講座や事業を調べて、積極的に参加する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 学年独自のボランティア活動は、全員一生懸命取り組めた。 校外清掃活動は、もう一回実施してもいいのではないか。 カンボジア支援の継続体制づくり。 |
| 特定 課題 | 授業での IT活用 | <ul style="list-style-type: none"> パソコン活用授業の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 教職員全員が情報機器を活用した授業を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 情報機器を活用した授業を全教諭が学期に1回実施する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 情報機器を利用した授業はある程度スムーズにできるようになってきている。 |
| | 学校の個性 化 | <ul style="list-style-type: none"> 特色ある教育課程の編成 | <ul style="list-style-type: none"> 平成20年度に向けて特色ある教育 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心や進路希望に対応したコースを設け、教育目標や年間計 | A | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望や各コースの教育目標達 |

| | | | | | |
|--|--------------|---|--|---|---|
| | | 課程の編成に取り 組む | 画を明確にする。 ・アンケート等を通して実態を把握する。 | | 成のため、教育課程 の編成をおこなった。 |
| | ・地域開放講座 | ・6講座の実施を 目指す。 | ・「高校生 Teacher 講座」に参加し、将 来の佐商生を目指す生徒を育成する。 | B | ・6講座の実施は19 総体で実現できな かったが、次年度は 是非実施したいと考 えている。 |
| | ・外部講師の活用 | ・年間20時間実 施する。 | ・生徒の多様な興味・関心に応えると ともに、より高度な資格取得や発展的 な学習に結びつける。 | | ・学科コースごと に講師を招き、年間 延べ20時間を超え 実施できた。 |
| | ・高大等連携 | ・日商簿記1級合 格を目指す。 | ・高度な資格を取得させ、高大連携 の基盤をつくり、難関大学に挑戦さ せる。 | C | ・検定対策として、 専門学校の講義等を 上るが、実績が重要。 ・今後はさらに進学 や資格取得のため に必要である。 |
| | ・インターンシップの推進 | ・実施学年の100% の参加率実現 | ・職場での体験を通して、勤労観や職 業観を培うとともに、将来の進路を考 えるきっかけとする。 | B | ・全体的に、進路意 識の向上につながら る活動はできたが、 事後の進路に向けた 充実の充実を図るこ とが重要である。 |
| | ・学校祭（文化祭の充実） | ・新しい企画運営 を行い、保護者や 地域住民の参加を 図る。 | ・佐賀市商店街での文化祭を見直し、 新企画を立案し、地域参加型文化祭 を実施することで、学校の活性化に つなげるものとする。 | B | ・体育祭・文化祭、 同時開催も生徒の協 同力ではあったが、 準備が素晴ら しいものができた。 ・次年度は同時開催 の内容をよりの充実し ていくための検討を 重ね、発展的に行 うこととして取り組 むことが課題である。 |
| | ・起業家教育の推進 | ・起業家教育を定 着する。 | ・学校独自のテキストを作成する。 ・企業を興すまでの一連の流れを体験 する事で、将来の起業家を目指す生 徒を育成する。 ・知的財産教育の充実を図る。 | A | ・商品開発をさらに 進め、起業家教育の 充実・発展的内容に 取り組んでいくこと が大切である。 |